

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371100849		
法人名	株式会社 エヌエス		
事業所名	なごみの里		
所在地	名古屋市港区東蟹田1001番地		
自己評価作成日	28年9月7日	評価結果市町村受理日	平成28年11月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	平成28年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日欠かせない食事は季節の野菜を中心に考えさせてもらい、お米も自施設の一年分を作らせてもらっており、安心・安全な食事の提供を心がけています。外出にも力を入れており、毎日の散歩や月に一度の外出、喫茶店等々楽しんでいただいております。理念にあります、“笑顔の絶えない楽しい暮らし”を目指して日々利用者様のお手伝いをさせてもらっています。認知症になられても、できることをお手伝いさせてもらいながら、実行していただき、自信につなげてもらえたら嬉しいです。私たちも日々利用者様とともに本当の家族のように過ごさせていただきたいと思い、お仕事をさせていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「一日一笑」を心掛け、「その人らしい生活」の継続が出来るような支援を行っている事業所である。経験年数の長いベテラン職員が多く在籍し、家族のように、さりげない声掛けや見守りをしている場面が多く見られた。また、事業所の代表者が古くから地元の住民ということもあり、地域の行事参加だけでなく散歩時に世間話する等、地域住民との関係も良好である。さらに優れている点としては、自家栽培の旬の野菜・米・果物を毎日の食材に利用しているため、安心・安全で、季節を感じられる食事の提供を可能にしている事である。家族アンケートにも「自家製野菜の料理で家庭的な雰囲気がある」と評価が高い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしい生活をする 笑顔の絶えない楽しい暮らし 地域に根ざした暮らしを理念とし玄関や各フロアに掲げて、職員一同、意識を持ちお仕事をさせてもらっています	理念は玄関、各フロアに掲示している。その人らしい生活をおくる為に意向に沿った支援に取り組みながら、一日一笑を心掛け積極的に声掛けを行っている。職員会議で振り返りをしながら、理念に沿った支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の方には消防訓練や運営推進委員会に参加していただいたり、地域の敬老会へ毎年招待していただいております 回覧板をまわしてもらい、地域の行事にも積極的に参加していきたいと考えています	地域行事の情報は回覧板から入手し、敬老会など参加している。フラダンス、高校合唱部、園児の踊りの慰問がある。民生委員の声掛けで、地域住民が集う「陽まわりの家」へ出かけ、浴衣の着付け、野菜の栽培などの活動に参加している。又、散歩時には会話を交わしながら交流を深めている。 施設の避難訓練に地域の方の参加がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が迷われている時はお声かけをし、助けられるように努めています また逆に地域の方に私どもが認知症の方をお連れしていると大変ねと声をかけて下さることもあります		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の近況や問題等を相談し、サービスの向上に努めています また地域の方より情報をいただき、勉強させてもらっています	地域住民、行政、利用者家族の参加があり、事業所の取り組みの報告を行い、参加者からの助言、提案、意見交換など行っている。避難訓練の誘導方法について、家族の承諾を得て、推進会議時に利用者の日常を写真で紹介する等、様々な提案がある。速やかに実践し反映に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことは相談してもらい、助けてもらっています また市町村の研修等には極力参加させていただき、勉強させてもらっています	いきいき支援センターとは空き状況等のお知らせやホームの現況の取組みについての報告等、定期的に情報交換を行っている。市や県の研修、事業所連絡会の勉強会などの参加がある。又、区役所の福祉課とは相談等を行いながら連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠のないケアを目指し、過去に何回も利用者様が出られたため、現在はフロア毎の施錠はさせていただいておりますが、ご家族様にも理解をいただいております また、日頃より身体拘束について話し合い、身体拘束をしないケアに努めております	身体拘束についてのマニュアルは閲覧できるよう設置している。問題がある場合はその都度話し合いを行っている。その人らしい生活が維持できるよう、転倒に繋がる危険性がある場合でも動作を抑制することなく、見守りの体制を強化する等工夫している。また、その際の身体拘束をしないための支援の方法を家族に説明を行っている。	年間研修に計画する等、身体拘束をしないケアについて職員が振り返りの機会を持たれる事を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	情報共有に努めて、日頃より利用者様の様子や傷などを注意してみるように心がけております マニュアルをいつでも見られるところに置いています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルや研修会において学ぶ機会を設けています また身寄りのない方は身元引き受けの機関を紹介し、支援させていただいています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は入所時にひととおりご説明させていただき、理解していただいております また改定時には文書にて同意をいただいております		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けたり、面会時に様子を伺い運営に反映できるように努めています	意見箱の設置がある。家族の意見は面会時に近況を報告しながら、会話から聞き取りをしている。利用者の意見、要望は就寝前など時間をとり、ゆっくりと聞き取るよう支援している。意見、要望は運営に反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の会話等により、意見を聞けるように心がけています また外部の専門機関に相談し、反映できるように努めています	職員意見はフロア会議等で聞き取りを行っている。会議で話し合う議題はそれぞれ提案することができる。入浴後の水分補給の提供の仕方の提案があり、話し合いを行い反映に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の実績や努力により反映できるように心がけており、長く勤めてもらえるように、現在調整中です		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の能力に応じ研修の声かけをさせてもらっています。また社内研修にも積極的に取り組んでいます		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	港区事業者連絡会に参加させてもらい、勉強会や親睦会を通じて同業者の交流を定期的に図っています また中部介護支援協会にも参加させてもらい、サービスの質の向上に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に直接事前にお会いし、困っていることや要望を伺っています。また特にサービス導入時は信頼関係がとれるまでいつも以上に注意し、対応させてもらいます		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にも事前にお会いし、困っていることや要望を伺い、安心していただけるように、信頼していただけるように努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人にとって一番必要なサービスを見極められるように努めており、場合によっては、違うサービスもご紹介させてもらっています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護をしているという立場ではなく、できることやできないことを互いに助け合い、感謝や敬意を表し、よりよい関係を築いていけるように努めています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との絆を大切にしてもらいながら、たまには周りで一緒に会話等に入れていただき、支援させてもらっています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の思いを大切にしながら馴染みの方がいつでも来ていただけるような、環境づくりに努めています	入居前のデイサービスで一緒だった友人の定期的な来訪等、以前からの友人、知人の来訪があった場合には、ゆっくり話ができる様にお茶や場所の提供を行っている。年賀状、手紙、電話の取次ぎの支援を行なっている。年賀状を送付の際には、イベント参加のお誘いのコメントを入れている。又、スーパー、喫茶店など入居してからの新たな馴染みの関係も築いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を見守りながら、時には間に入りながら、お互いにより良い間柄になれるように努めさせてもらっています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても病院等にいらっしゃる場合は会いに行き、ご本人が孤立されないように努めています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活のため、伺えない場合もありますが、できるだけ、ご本人の意向に添えるように心がけています また本人本位に考えられるように努めています	日常の会話、関わりの中から思いや意向を汲み取り、意思の表出が困難な場合は表情、様子から汲み取るよう努めている。その中で気づきや様子を申し送りノート、業務日誌、介護日誌等に記録し、職員間で共有を図り、必要時には事例検討を行い、本人本位の支援に繋げられるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の利用者様との会話やご家族に伺い今までの経過の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の情報共有に努め、小さいことも見逃さず共有できるように努めています また色々試しながらご本人の現状の把握に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のフロア会議にて個々の利用者様のケアについて話し合っています またご家族にも近況をお話し、意見等を伺いケアプランに反映させてもらっています	月1回のモニタリングを行い、3ヶ月に1回計画の見直しをし、状態に変化があった場合はその都度見直しを行っている。事前に利用者、職員の意見は聞き取り、家族の意見は面会時に聞き取りを行い、プランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな気づきも普段より申し送りやノートにて情報共有し、日々のケアに役立てている また見直しが必要な場合は常時見直しています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族ひとり一人のニーズに応えられるよう、努めています また言いやすい環境づくりにも努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の趣味を大切にしていつまでも続けていただけるよう、いつまでも自信を持っていただけるようにご家族と協力して安心して楽しく暮らしていただけるような支援に努めています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医等伺い必要なときはかかりつけ医にかかっていたできるように支援しています	月2回協力医(内科、整形)の往診があり、週1回訪問看護師を利用している。緊急時は24時間協力医と連絡可能であり、緊急搬送時は既往症、服薬情報の記録のある個人ファイルで対応している。提携歯科は受診で対応し、受診困難な利用者は訪問歯科を利用している。かかりつけ医、専門科医の受診は家族対応であるが、困難な場合は職員の対応で支援している。服薬は職員が個々に分別して管理している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	フロア毎にノートを作り、日々の利用者様の様子を相談しています。その後必要あれば処置等を行っています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にお見舞いやカンファレンスに参加してその後の情報共有に努めています。また色々相談にのってもらい、より良い関係づくりに努めています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては日々職員間にて話し合っています。早い段階ではご家族には相談していませんが、必要な時期に相談させてもらっています	看取りは行える体制はある。契約時に入居者、家族の意向の確認を行っている。重度化した場合は利用者に関わる関係者と話し合い方針を決め支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルにて学ぶ機会を設けています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施しています。うち一回は地域の方や消防の方にもご協力いただき、普段より信頼関係が築けるように努めています	春と秋に昼間・夜間想定で消防署立ち合いの下、避難訓練を行っている。秋には地域住民の参加もあった。地震・津波想定訓練では、近隣のマンションへ入居者と共に避難している。3日分の水、食料、アルファ米の備蓄があり、簡易担架の準備もあ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、冗談が言える方には言ってみたり、律儀な方には崩さず丁寧な言葉を心がける等、基本的には一緒ですが、個別に言葉かけや対応を変えることもあります	入居者の呼び名は名字、名前に「さん」付けである。会議はフロアで行う際は、プライバシーに配慮し、個人名は特定されないよう声の大きさを変えている。個人の記録は見えない様、置き方に配慮している。又、入居者の尊厳を損なわないような声掛けをし、居室は許可を得てからをしてから入室している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい環境づくりに努めています また意思を伝えにくい方には答えやすい質問をするなど、なるべく自己決定できるように働きかけています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様にとって居心地のよい空間で暮らせるように職員の都合ではなく、利用者様の都合で暮らしていただけるようにお手伝いさせていただいています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様が気に入って下さるようなおしゃれの援助を心がけています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自家栽培の野菜を中心に利用者様が喜んでいただけるメニューを利用者様やご家族に伺ったりして、メニューや外食に取り入れています お手伝いも積極的に手伝っていただいています	自家栽培の野菜、果物、米を使用しているので、献立は時期の収穫状況で職員が献立を決めている。お膳に個人名が記載されているので、個人個人で配膳を行い、調理など利用者と共にしている。月1回の外食は主に和食、利用者との会話から以前食したインスタント物、流しそうめんなど食への関心を引出し、楽しむ工夫がある。又、箸、コップ、茶碗、御椀は個人の物を使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量は毎日記録し、水分摂取量も必要があるときは記録しています 個々に色々な食事形態や嗜好にもなるべく対応させていただいており、摂取量が少ない方には色々な工夫で召し上がっていただいております		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人で口腔ケアをしていただいております できないところをお手伝いさせていただきます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握して、トイレで排泄していただけるよう支援させてもらっています	夜間は4回の巡視を行っている。覚醒誘導が必要な利用者には巡視時に誘導をしている。失禁回数が増えた利用者に排尿のパターンを把握し、パットの汚染確認をしながら、時間でトイレ誘導を行い、尿意を取り戻した事例がある。パット外しが成功し、リハビリパンツから布パンツに戻った事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日課としてNHKのテレビ体操やラジオ体操等を取り入れています また散歩も真夏、真冬を避けそれ以外は散歩をさせてもらっており、筋力の維持に努めています 個別にも訓練を行っています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が嫌いな方にはタイミングや声かけ等を工夫して入っていただいております またお好きな方は時間に余裕があるときには優先して入ってもらっています	入浴は二日に1回14時頃から行っている。ただし、毎日入浴したいという要望にも対応可能である。入浴を嫌がられる場合にはシャワー浴に変更、または、タイミングをみて声掛けをする等工夫している。白癬菌などの感染予防は(現在重度の方はいないが)、入浴後の足ふき時は個人のタオルを使用している。季節によりゆず湯、菖蒲湯を実施し入浴を楽しむことができる様にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり体調や気分によってお好きなように自由に生活していただいております またメリハリのある生活も大切にしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が個々の利用者様の薬について共有できるよう心がけています また常日頃より利用者様の変化には注意し観察させてもらっています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や特技を活かしてもらえるように努めています また、散歩や外食等で気分転換を図り、笑顔の絶えない楽しい暮らしを目指しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅願望の強い方には自宅の前までお連れしたり、ご家族にもお手伝いしてもらいながら外出支援をさせてもらっています	気候や本人の体調に合わせ日常的に散歩や近くの大きな公園へ弁当持参で出かけている。年2回ハイエースを使用しボランティアの協力を得てなばなの里やブルーボネット等遠方への外出も行っている。また、入居者の要望により買い物や喫茶店等への個別の外出支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時にご家族と相談させてもらい、決めさせてもらっています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で電話をしていただいて支援をさせてもらっています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただけるよう、季節に合わせた貼り絵や作品を作ってもらっています また一日に何回かは窓をあげ、その日の気候を感じていただけるようにしています 庭にはハナミズキや金木犀等季節の木々が植えられています	共有空間は手作りカレンダー、入居者の写真、職員紹介の掲示がある。広々としたリビングに三人掛けのソファが3つ置かれ、座りながら庭の木々を眺めることができ、ゆったりと寛げる空間となっている。冬季は加湿器付きの空気清浄器を使用し、ウィルス、乾燥対策をしている。リビング、廊下等の清掃は入居者と共に行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日向ぼっこの空間や3人用のソファ等それぞれに過ごしていただけるように工夫させてもらっています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にご説明をして使い慣れた物を持ってきていただいています また心地よい清潔な空間が保てるように心がけています	居室はベット、防火カーテン、エアコンの設置がある。以前から使用していた家具や趣味の飾り等が置かれ、一人ひとりその人らしい空間づくりがされている。毎日の清掃や週1回のシーツ交換・布団干しを実施し清潔が保たれている。入居者が使用しやすい道具を置き、自発的に清掃に参加できるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには大きく文字を書いたり、好きな物を貼ったりして分かり易くなるよう努めています		

目標達成計画

作成日: 平成 28 年 10 月 29 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束をしないケアについての振返りの機会がない	身体拘束をしないケアについて職員の意識を高め、定期的に確認する機会を設けたい	身体拘束に関するセルフチェック表を作り、職員の意識を確認していきたい	5ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。